

パパは神様じゃない

小林信彦



晶文社



著者について

小林信彦（こばやし・のぶひこ）

一九三二年東京日本橋両国に生れる。一九五五年早稲田大学英文学科卒業。いくつかの職を経て、一九五九年より四年間、雑誌「ヒッチコック・マガジン」の編集に当る。

著作—『冬の神話』（講談社）『ある晴れた午後』（新潮社）

『笑う男 道化の現代史』『オヨヨ島の冒険』（晶文社）

中原弓彦名義の著作—『日本の喜劇人』『世界の喜劇人』（晶文社）

パパは神様じゃない

一九七三年一月三〇日印刷

一九七三年二月五日発行

著者 小林信彦

発行者 中村勝哉

発行所 株式会社晶文社

東京都千代田区外神田二一—二一

電話 東京二五五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）

振替 東京六二七九丸

中央精版印刷・美行製本

ブックデザイン 平野甲賀

© 1973 Nobuhiko Kobayashi

（検印廃止）落丁・乱丁本はお取替えいたします



日文 701700631

ハルハル
小林信彦

月様じゃない



晶文社



日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

パ
パ
は
神
様
じ
ゃ
な
い

イラストレーション

小林泰彦

パパは神様じゃない・目次

はじめに

第一章 受胎告知

第二章 出産前後

第三章 父親へのパスポート

第四章 夏の父親

第五章 旅に出た父親

第六章 続・旅に出た父親

第七章 年年歳歳

第八章 戦後疲れ

第九章 二月は残酷な月

11

15

27

43

57

73

87

101

115

129

第十章 子供にいる風景

第十一章 一歳の誕生日

第十二章 囲いはきらい

第十三章 ハートブレーク・キッド

第十四章 またしても夏

第十五章 夏の終りに

第十六章 動物のぬいぐるみ

第十七章 わが顔は緑なりき

第十八章 父親の祈り

あとがき

279 265 249 233 219 203 187 173 157 143

はじめに

私の手もとに、二冊の分厚い育児書がある。

一冊は『スポック博士の育児書』であり、もう一冊は松田道雄氏の『育児の百科』である。

いうまでもなく、スポック博士は、ノーマン・メイラーが『夜の軍隊』で描いた反戦デモにおいて逮捕され、松田道雄氏もまた、今日、もっとも信頼しうる知識人として私の尊敬するかたである。私の上の娘は『スポック博士の育児書』によって育ち、生れて間もない下の娘は『育児の百科』に負うところが大であるうと思われる。

この二名著があるにもかかわらず——じっさいには、まだまだすぐれた本があるのだが、とりあえず、この二冊を代表とする——まったくの素人どころか、粉ミルクの扱いすら怪しい私が、

育児について、なにごとかを云々するなど、狂気の沙汰と思われても仕方がないだろう。

だが、盗人にも三分の理、一点だけ固執すれば、母親に語りかけるスポック博士、赤ん坊の立場に身をおいた松田先生——いずれもへ父親が何をしたらいいのか？という重要なポイントに關しては、あまり、筆をさいていらっしやらない。

ひとことで言ってしまうえば、生活費を稼いでくる以外に、父親のなすべきことがないという事実——この悲しむべき事態を、まず、直視しなければならぬ。スポック博士や松田先生の「黙殺」は、当然かつ正しいのである。

しかしながら、なおかつ、へ赤ん坊ノタメニ何かシタイノダと考える男の読者は、私の悲痛な文章を読まなければならない。

だいいち、夫の協力なくしては、赤ん坊はできないのだから（世の中には、そうでない場合もあるが……）、こちらにも、育児の権利が、半分ぐらゐはあると考えてよいように思うのだが、いかがなものであろうか。

だが、今後、「ワトソン博士の育児書」「ソーンダイク博士の育児書」「ジャック・ザ・リッパー氏の夜泣き防止法」などが、次々に出版されたとしても、父親の立場に立った育児書というものは、まず、出ないであらう。……要するに、父親は差別されている。そして、また、育てたとしても、私の家の場合、女の子であるから、冷たく家を出てゆくにちがいないのだ！

……思わず、感情的になったが、読者よ、お許し願いたい。今後は、このようなはしたない態

度をとらずに、冷静に筆をすすめてゆきたい。たとえ、いかなる脱線があろうとも、筆者のめざす目標は、つねに変わらないであらう。

第一章

受胎告知

